

# 平成22年 七尾市成人式

1月10日(日)

ほろむ ふるさと みち  
「抱夢」～七尾を胸にそれぞれの平成を～



「市民のねがい～七尾市民憲章～」を唱和する成人者

すべての新成人が平成生まれとなった平成22年の成人式。七尾市では、617名が成人を迎え、晴れやかな門出を祝った。

今年のテーマは抱く夢と書いて「抱夢(Horo-me)」。ふるさと七尾の、また自分たちそれぞれの未来に抱く夢。自分たちが生まれ育った「ふるさと七尾」を大切に胸の中に抱き、それぞれの道を築いて生きていこう、という意味が込められている。

当日は、全員二十歳で構成する成人式実行委員会が式典の内容や運営を自ら企画・立案。オープニングを飾ったのは、実行委員会メンバー5人による創作太鼓「祝い太鼓」。11月から何度も手のマメをつぶしながら週3回の練習を重ね、気持ちの込められた太鼓演奏に会場から大きな拍手が贈られた。来賓の方から祝辞が贈られた後の記念行事では、実行委員の女性10人があでやかな振袖姿で女性らしさを表現した踊り「はたちの舞い」を披露したほか、友情出演として「能登國浦浦七土(よさこいチーム)」が華麗な舞を披露した。また、親から子への「おめでと」の手紙と子から親への「ありがとうの手紙」を朗読。「ありがとうの手紙」では、成人式直前に父親を亡くした後藤ゆたかさんが涙をこらえながら天国にいる父親に向かって感謝の言葉を述べた。会場では、感極まって涙を流す人も。最後は、成人式実行委員会の委員長宮下弘樹さんが「新成人のみんな！寒くて暗い世の中を明るく照らしていこうぜ！」と力強い挨拶で式典を締めくくった。

今後、七尾を元気なまちに、活気のあるまちにするのは、ここに成人を迎えた若き力だと実感できる素晴らしい成人式だった。

## interview

①20歳になった感想は？ ②将来の目標や夢は？ ③あなたにとって「ふるさと七尾」とは？

### 実行委員会の3人に聞きました

西端 美貴(能登島百万石町)

- ①自分の行動に責任を持ってしっかりしなきゃいけない。
- ②七尾でやりたいことを見つけて頑張っていきたい。
- ③今までいろんな人に支えられてきた私自身がこれから支えることが役に立てることができるよう生きていくんだと思えるふるさと。ホッと一息つけてあたたかくて落ち着く七尾が大好き！



山崎 弘生(和倉町)

- ①欲しかったモノが手に入った感覚です！
- ②自分の考えをしっかり持ち、何事にも頑張っていきたいです！
- ③七尾は落ち着くところ！「ふるさと七尾」は自分にとって心の支えになっています。



後藤 ゆたか(和倉町)

- ①まだまだ子どもでいたいけど、大人としての自覚を持った行動をします。
- ②ちゃんと支えられる「父+母÷2」のバランスのいい大人になりたい。
- ③自分の居場所、友達みんなが帰ってくる場所。田舎だけど、自然豊かでおいしいものも多い。人もあたたかく胸を張って自分が生まれ育ったと言えるまち「七尾」が大好きです。



# 拘夢



手紙に合わせてピアノ演奏する西田美晴さん



手紙を読む後藤ゆたかさん



会場入口に並べられた中学校時代の体育服



地区別に記念撮影



司会の西田美晴さん(右)と柳島隆昌さん(左)



力強く拳をあげる実行委員長の宮下弘樹さん

オープニングを飾った祝い太鼓を打ち鳴らす梅田真吾さん(左)と松野みどりさん(右)



式典会場に向かう新成人①



式典会場に向かう新成人②

成人式実行委員会に入ってから早く過ぎ去った日々の中で、いろいろな人と知り合い、またいろんなことがあり、本当にたくさん、ことを学んだような気がします。式典当日は、多くの人の応援の声や拍手に助けられ思いっきり本番を楽しむことができました。式典を盛り上げてくれる新成人の皆さんを見てみると、この寒くて暗い世の中に明るい光をこれから照らしてくれるのではないかと思います！

公民館や市役所の方々をはじめ、交通整理受付、式典の進行、着付けのボランティアなど、本当にこの成人式には地域のみなさんの助けがあり、たくさんの方々の思いが込められているのだと気付きました。本当に七尾はいいところで、七尾の人はいい人ばかりだと思いましたが、自ら入ろうと思って入ったわけではない実行委員会でしたが、今は本当に入ってくれたと実感しています。

七尾市成人式実行委員会

委員長

宮下 弘樹